

講義名	対)19～日本語C(書く)/15～日本語C【留学生科目】		
担当教員	野村 由香里		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限	授業形態	演習
履修開始年次	2年生	単位数	2
備考			
<b>主題と概要</b>			
<p>大学ではレポートの作成、また、卒業論文の執筆が必須である。そこで、この授業では論述文の書き方を基礎から学習する。具体的には、話し言葉と書き言葉の違い、論述文に合う文体、文章の要約、また、文章全体の構成、参考文献の書き方等、順を追って学習していく。</p>			
<b>到達目標</b>			
<p>留学生が大学でレポートや論文を書く際に必要な基礎知識を身に付けるため、実際に書いたものを教師が添削したり、助言をするという形式で授業をすすめるため、この授業は対面授業で行う。 *但し、学生に通学困難な事情が生じた場合には、学生と相談の上、対延する。</p>			
<b>提出課題</b>			
授業中に指示			
<b>課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック</b>			
授業中に個別に指示			
<b>評価の基準</b>			
授業中の課題点(60%) 中間・期末テスト(40%)			
<b>履修にあたっての注意・助言他</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出欠確認は毎回点検を行う</li> <li>2. 5回以上欠席した場合は期末試験を受けることができない</li> <li>3. 授業が始まって15分以内の入室は遅刻とみなし、遅刻3回で1回の欠席となる</li> <li>4. 15分以上の遅刻は欠席とみなす(授業は受けてもよい)</li> <li>5. 授業時には辞書を携帯すること</li> </ol>			

<b>教科書</b>				
.使用しない。				
<b>プリント資料及び参考文献</b>				
<p>『小論文への12のステップ』友松悦子著 スリーエーネットワーク 2008 ISBN978-4-88319-488-9 C0081  『大学で学ぶための日本語ライティング』佐々木理枝他著 The Japan Times 2006 ISBN4-7890-1221-2  『留学生のための論理的な文章の書き方』三浦信子著 スリーエーネットワーク 2008 ISBN978-4-88319-257-1 C0081</p>				
<b>授業計画</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内容や評価などの説明/表記の仕方1</li> <li>2. 表記の仕方2</li> <li>3. 文体</li> <li>4. 話し言葉と書き言葉</li> <li>5. 小論文によく使われる表現</li> <li>6. 段落</li> <li>7. 要約文を書く1</li> <li>8. 要約文を書く2</li> <li>9. 中間期理解度試験の実施及びその解説</li> <li>10. 意見文を書く1</li> <li>11. 意見文を書く2</li> <li>12. 事業を示す方法</li> <li>13. 引用の表現</li> <li>14. 小論文のはじめと終わり/参考文献の書き方</li> <li>15. 総括</li> </ol>				
<b>授業形態(アクティブ・ラーニング)</b>				
	ア:PBL(課題解決型学習)		イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	
	ウ:ディスカッション、ディベート		エ:グループワーク	
	オ:プレゼンテーション		カ:実習、フィールドワーク	
	キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)			
<b>準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>				
<p>予習(90分) その日に習う事柄に一通り目を通し、分からない言葉があれば調べておく。  復習(150分) その日に学習したことを、もう一度復習し課題を行う。</p>				
<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b>				
この科目の修得は流通科学大学の定めるディプロマポリシー2「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の育成に關与している。				
<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>				
<b>実務経験の有無及び活用</b>				
<b>備考</b>				